

	第1予想	第2予想	第3予想
第1問	記述問題 ・特殊原価調査の建設業における意義 ・工事収益の認識基準について	記述問題 ・仮設資材の損耗額の工事原価への算入について ・建設業原価計算の特性について	記述問題 ・工事間接費の正常配賦について ・工事原価の事前計算について
第2問	正誤問題	用語補充問題	用語補充問題
第3問	個別計算問題 ・社内損料計算制度(機械等)	個別計算問題 ・標準原価計算	個別計算問題 ・社内センター制度
第4問	個別計算問題 ・組別または工程別総合原価計算	個別計算問題 ・材料費会計	個別計算問題 ・補助部門費の配賦(複数基準配賦法)
第5問	総合問題 ・「工事原価計算表」または「完成工事原価報告書」の作成 ・「未成工事支出金」残高の計算 ・「原価差異」の分析		

なぜ、こう予想したか？

第1問では、過去には主に次の3つの項目が出題されています。

- 1)建設業原価計算の特質に関連するもの
- 2)トピックな論点や試験範囲に新たに追加された論点(活動基準原価計算、特殊原価調査、工事契約会計など)
- 3)建設資機材の工事原価への算入方法や工事間接費の配賦など

これらの点を踏まえて確認しておきましょう。

第2問では正誤問題か用語補充問題が出題されています。そして前回2回は連続して用語補充問題が出題されています。そのため、今回は正誤問題の可能性が濃厚だと思われるが、出題者は用語補充と正誤で大きな違いはないと考えていると思われる。そのため、用語補充問題にも十分に備えておきましょう。過去には、**原価の費目別計算、原価計算総論、工事契約会計、工事間接費の配賦、特殊原価調査**などが出題されており、多岐にわたりますが、これらの頻出度の高い論点を中心に確認しておきましょう。

第3問は、過去問題を分析してみると、社内損料計算制度・原価の部門別計算・材料副費の処理・標準原価差異分析の4つから出題されています。しかし前回試験では差額原価収益分析(=特殊原価調査の代表的分析手法)が初めて出題されています。前出の4つのうちもっとも頻出度が高いのは**社内損料計算制度**です。そのため第1予想としました。また近年原価管理の重要性が高まっています。そのため**標準原価計算**を第2予想としました。社内センター制度は近年、第3問において出題されたことはありませんが、第5問の問題の一部として取り上げられることもあります。そのため第3予想に挙げました。

第4問は、建設業に特有のものではなく、一般製造業の原価計算が中心となって出題されています。出題実績から見ると、何かが数多く出題されているということはありませんが、**総合原価計算**および**材料費・労務費の会計**が多いため、これらの論点に十分に注意する必要があります。そのため工程別総合原価計算や組別総合原価計算を第1予想に挙げました。また補助部門費の配賦(特に複数基準配賦法に注意)や材料費会計などの論点も、今後も出題が予想されるところです。十分に対策しておいてください。

第5問は**総合問題(完成工事原価報告書、原価計算表、原価差異の分析等)**です。配点が高く解答にも相当の時間が必要ですが、出題パターンが毎回ほぼ同じであるので、過去問で十分に対策しておきましょう。